



学校だより

令和5年 11月30日

横浜市立榎が丘小学校

～豊かにかかわり合い、しっかり学ぶ、心身ともに健やかなえのきの子～

TEL 045(983)1067 FAX 045(983)5284

HPアドレス <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/enokigaoka/>



はたらくということ

校長 仲川 美世子

11月23日は勤労感謝の日でした。小学生の頃の私は、毎月もらうお小遣いをやりくりして欲しいものを買ったり、ちまちまと貯めることを目論んだりしていました。そして、学習や生活に必要なものは頼んだら買ってもらえるものだと思っていました。それは父が働いてくれているおかげだから、勤労感謝とは父に感謝する日だと思っていました。中学生になって、父が毎月もらうお金には限りがあり、何でも自由には買えるものではない、手に入るものではないということによりやく気付き、欲しがるだけではいけないということや、働いて報酬を得るという厳しさに驚いた覚えがあります。同時に今の生活を支えてくれているのは父の稼ぎだけではなく、母が家の中のことをしているから何も心配がいらなかったのだということ遅ればせながら確認しました。そこでようやく「勤労感謝」の「勤労」には、いろいろな意味があることに思いをはせることができたのです。

「勤労」＝「はたらく」と考えると、世の中にはいろいろな「はたらく」があります。私の父がそうであったように、社会に出て働いて報酬を得て家族を養えることに喜びを感じる「はたらく」もあれば、また母のように、家族が外で活躍できるように家の中を整えることに喜びを感じる「はたらく」もあります。大人だけではなく、子どもだって社会で働いています。学校での係活動や当番活動、委員会活動など子どもなりの社会で「はたらく」ことによってこの社会が成り立っています。集団登校での班長や副班長、その指示に従って並んで登校することだって「はたらく」かもしれません。

世の中が加速度的に変化する今、子どもたちが本当に社会に出て「はたらく」ようになる頃には、職業としての「はたらく」ことは大きく変わるだろうと言われています。だからこそ、「はたらく」ことの意味をきちんと理解できる人であってほしいと思います。単に報酬を得るとか物や金銭的な豊かさではかるものではなく、そこには自分の「心」が存在すること、満足感や成就感、自己有用感とも言えるかもしれません。もちろん誰かに認められて褒めてもらったそれはそれでとてもうれしいことですし、そのことによって満足感もアップすることでしょう。でも、仮に誰にも気付かれなくても、誰かのために、社会のために役立っていると自分で気付くことができればそれでも「はたらく」ことに違いないと、自分で自分を認められることの喜びを感じる人があってほしいと思います。

学校では、さまざまな「はたらく」を支えていきたいと思っています。上記に述べた活動ももちろん、授業で自分の意見を出すことも協働での学習を支えることにつながります。きまりやルールを守ることも、安心・安全な社会をつくることにつながります。誰のものかわからないものを拾ってあげることも知らない誰かを助けることにつながります。そういった広い意味での社会貢献が「はたらく」ことにつながるのではないかと考えます。どうか保護者の皆様、地域の皆様のお力もお貸しください。よろしく願いいたします。